



2014年3月17日

NTT 都市開発株式会社
代表取締役社長 牧 貞夫 様

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部 支部長 上原 寛
同 保存問題委員会 委員長 安達 文宏
同 千代田地域会 代表 篠田 義男



通信ビルの歴史的価値を未来へ伝えるための検討委員会設置のお願い

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
貴社におかれましては、日頃より文化の発展と継承に深く理解を示され、心より敬意を表します。

さて、通信ビルが建つ土地を含めた「大手町二丁目地区第一種市街地再開発事業」が、昨年8月末に東京都の施行認可を受け、その計画の流れで通信総合博物館が8月31日に閉館され、また12月末には日本電信電話株式会社の本社機能が、近隣ビルに移転されたことは承知しております。

通信ビルには、「ていぱーく」の愛称で親しまれた通信総合博物館が設けられていましたので、全国から大人子供を問わず多くの人々が訪れました。また、新幹線や高速道路からも眺められ、東京駅へ近づいた時のランドマークでもあったことから、今日まで多くの人々の記憶に刻まれてきました。

その設計は、通信省から郵政省まで在籍し、郵政建築を中心に数多くの設計を手がけた小坂秀雄によるものです。小坂は、東京中央郵便局舎を設計した吉田鉄郎の後を継ぎ、更に発展させ、日本的要素をデザインに活かし、深い軒庇を重ねることで、水平を強調した素晴らしいプロポーションの建物へと、この通信ビルを昇華させました。丸柱、壁、窓、庇、屋上塔屋のブロックや内外部のタイル等のデザイン要素にも巧みで繊細なディテールを施しています。同じ街区に在った東京郵政局も小坂の設計でしたが、これら深い軒庇を重ねることで日射の熱負荷を押さえるなど環境的な配慮を施し、同時に水平を強調し彫りの深い格調高い立面を実現した小坂の意匠スタイルは、その後、全国の郵政建築や公共建築の規範となって広がって行きました。

通信ビルは、郵政や公共建築の一時代を築いた小坂の代表作の一つであり、また大手町にとって、その歴史的・文化的・都市景観的な価値において、たいへん貴重なものです。計画の実施が迫る中ではありますが、潜在する経済的資産価値を発掘できないか、そしてそれら種々の価値を次世代へ継承するためにどのような工夫が出来るのか、一つの試みとして、関係組織や学術団体が参加する、通信ビルの価値を未来へ伝えるための検討委員会の設置などを、ぜひとも早急にご検討・ご対応いただきたく、ここにお願いする次第です。

なお、公益社団法人 日本建築家協会 としましても、出来る限りの協力をさせていただく所存であることを申し添えます。

敬具